

# 東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会記録

平成31年4月26日(金)午後1時28分～午後2時24分(9階908会議室)

## ○出席委員(11名)

委員長	高木 克尚	副委員長	尾形 武
委員	沢井 和宏	委員	二階堂 武文
委員	鈴木 正実	委員	根本 雅昭
委員	小松 良行	委員	村山 国子
委員	小野 京子	委員	山岸 清
委員	渡辺 敏彦		

## ○欠席委員(なし)

## ○議題

- 1 委員長報告について
- 2 その他

---

午後1時28分 開 議

(高木克尚委員長) 皆さん、こんにちは。ただいまから東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を開会します。

まず、お配りをさせていただいております資料の確認をいたします。本日お配りしている資料は、委員長報告の素案、それから委員長報告に関連した意見書案、それから提言書を市長に提出する際に添付を想定しております高校生アイデア集の3点となっております。

初めに、委員長報告について議題といたします。

お手元の委員長報告素案をごらんください。正副委員長手元で素案を作成させていただきました。今回の素案の構成としましては、これまでお示ししたとおり、初めに調査の経過を記載をして、その後委員会として東京2020大会をどう捉えて提言までの調査を行ってきたのかを述べてはいかかかと考えております。その後は、意見交換会の詳細を記載した後、提言と意見書の提出について述べ、最後にまとめて謝辞を述べ、終了となります。

以上のような構成にしておりますが、まずは黙読をいただいて、内容についてご意見をいただきたいと思います。4ページですので、5分あれば、あちらの時計で35分まで皆さん、黙読をお願いを申し上げます。

【資料黙読】

(高木克尚委員長) 意見集約に移ってよろしいですか。

前回皆さんから一斉にご指摘をいただきましたが、最後のプレゼントは最高のエールというふうに変記を変更させていただきましたので、ご協力いただきたいと思います。

それでは、素案について皆さんからご意見を賜りたいと思います。意見のある方はお述べください。

(山岸 清委員) 2ページの11行目かい、ここに深刻な貧国とあるのだけれども、これは貧困かい。

(高木克尚委員長) では、ここは貧国ではなくて貧困と直して。

(山岸 清委員) あともう一つ、これどうでもいいのだけれども、2ページの17行目、最後の発表ではというやつ、これでも十分意味は通じるのだけれども、ここは意見の発表とやったほうがいいのかなど。ただ、後のほうでも意欲満載の意見が次々と述べられとなっているから、ダブるから、これは最後のやったのかなと思うのだけれども、意見の発表、最後の発表。

(高木克尚委員長) 8行目に意見交換会のと入っていたので、もう一度書くかどうか悩んだところだったのですが、皆さんから書いたほうが良いということであれば書きます。

(山岸 清委員) いや、そういうことであればそれでいいと思います。最後の意見で。

(小松良行委員) そこ関連して、私もそこやはり気になっていたのですけれども、これ何をやったかといったらワークショップだったのですよね。だとすれば、ワークショップ後のグループ発表ではとか、イメージしやすいような言葉を使ったほうがいいのかなど思ったりしました。

(高木克尚委員長) 具体的にその場面を表記したほうが良いということでは直しますか。今の小松委員からの文言でいかがでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) もう一回お願いします。

(小松良行委員) ワークショップ後のグループ発表ではというふうに変記はどうかと思いました。

(高木克尚委員長) そのように訂正をいたします。

他の常任委員会等々の委員長報告の中でも同様に扱われるのですが、提言の中に意見書のごとく表記をされるということは、これは理解していただきたい。2点目のところに意見書を出すということが述べられますので、提言の説明の中に途中に意見書のごとく入ることです。

(小松良行委員) 1ページの6行目の子供たち、ドモってこの子供でいいのですか。どういうふうに取り扱った。大概はドモは平仮名のどもが多いような気がするのですけれども、この辺はどういうふうにあれだったのですか。これまでのまとめ方はどうなっているのですか。文教なんかでつくるときはどうなのですか。

(書記) 常任委員会等の委員長報告等でもそうなのですが、こういった文書を作成するときに会議録の表記の仕方に基本的に合わせるような形にしておりまして、会議録の表記ですと子供のドモというのは漢字を使っておりますので、こちら今回は漢字ということにさせていただきました。

(小松良行委員) 理解します。

あともう一点、11行、これまでの開催地で最も南にという点の長野オリンピックの前振りは要るのかなという。普通に教育について、1998年の長野冬季オリンピックとつなげてしまっても何も問題ない。この文言が唐突、長野オリンピックを説明する必要はないのだろうに。それから、最も南に緯度としてあったということを表記する必要があるのかなという。そこを見に行っただけではなかったと思う。例えばそういうことで困難が予想されたけれども、成功裏に終わった長野オリンピックとかというならあれだけでも。

(高木克尚委員長) 最も暖かいところでやった長野オリンピックなんていうことはどうでもいい。

(小松良行委員) どうでもいい気がするような気がしました。これは皆さんのあれですけれども。

あともう一ついいですか。3ページの8行目に意識が芽生えるということの2点について知り得る機会になったというのは何かちょっとひっかかって、こっちからすると上から目線なのかななんて思ったりするのですが、意識が芽生える機会となったで。

(高木克尚委員長) 皆さんにまずお諮りをさせていただきます。

小松委員からございました1ページ11行目、長野オリンピックの説明余分ではないかと。割愛することではいかがですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 11行目は、これまでから位置したまで削除と。

それから、3ページ8行目、これも小松委員からご指摘のありました知り得る機会ではなく、意識が芽生える機会となったと単純に。

(村山国子委員) ここは違うのですよね。ここは、子供たちが芽生えたのを私たちが知る機会になったという、そういう意味なのです。だから、そういうふうになってしまうと内容が変わる。

(高木克尚委員長) 子供たちの現象ではなくて、我々の現象だからね。

(村山国子委員) そうそう、そうそう。私たちが、高校生たちがそう考えたことを知ったのだよという、そういう内容になっているのです。

(小松良行委員) ごめん、ごめん。おっしゃるとおりかもしれません。

(鈴木正実委員) 4行目の出だしのところが特別委員会としてと、それが後ろにかかってくる。

(小松良行委員) そうですね。そういうふうに読んでいけば私たちが知る機会ということではいいのか。申しわけない。

(高木克尚委員長) では、ただいまのご指摘はなかったものとします。

(小野京子委員) 2ページの23行の福島成蹊高校の学園祭、桃李祭なのですが、学園祭が桃李祭になっているので、学園祭の桃李祭のほうがいいのかと思うのですが、どうですか。学園祭を桃李祭と成蹊では言っているのですよね。

(高木克尚委員長) 学園祭である桃李祭。

(小野京子委員) それでもいいですね。

(鈴木正実委員) 多分この句読がその意味で、であるの意味ではないのかなと解釈した。

(小野京子委員) 言葉でつないだほうがいいかな。

(高木克尚委員長) では、2ページ23行目、福島成蹊高校の学園祭を桃李祭と呼んでいることから、これは学園祭である桃李祭。

(鈴木正実委員) その行の上、22行目、感謝を示すビッグアートって、表現のあらわすという、そういう意味合いで彼らは使っていたような気がするのですけれども。写真で感謝をあらわすビッグアート。

(高木克尚委員長) 指すことではなくて、あらわす、表現のほう。

(鈴木正実委員) 表現することという意味で。

(高木克尚委員長) 示すではなく、あらわすほうの。

(鈴木正実委員) 細かいところですけども。

あと、3ページの1行目の郷土料理でもてなし、突然お皿って、妙に丁寧な言葉、これは子供たちの言葉かもしれないのですけれども、文脈上何となくお皿って、これはただ皿だけでいいのではないですかねと。

(高木克尚委員長) 器かな。

(鈴木正実委員) あるいは、器でも何でもいいですけども、お皿というのは……

(高木克尚委員長) では、お皿にはは器にはと。お皿を器に変更します。

(鈴木正実委員) あともう一つ、解釈というか、読み方なのだと思うのですけれども、4ページの15行目、14行目から続けていくと、市民一人一人が感謝の気持ちを胸に刻み、開催都市としての誇りを持ち、笑顔と元気を伝え続ける、この伝え続けるというときに、何々にとかという、要するに後世に、将来にとか、あるいは世界にだとか、福島市全体にだとか、広めるところがあるほうがわかりやすいのかなという感じがするのですけれども。

(高木克尚委員長) 元気をの後にだね。

(鈴木正実委員) ええ。本市の一人一人がということは、将来にわたって伝え続けるという意味なのか、後世にという言い方がいいのかとか、選び方があるような気がするのですけれども。

(高木克尚委員長) 感謝自体は世界中にだけども、伝えるのは将来の福島市民。

(鈴木正実委員) うん、かな。語りつないでいくって、長野ですと10年間もいろんなことをやってきたと同じように、オリンピック開催やって、それを後世に感謝のオリンピックだったのだと伝え続けていくという、市民に対して。そういうことが必要なのかなと。後世にとか。

(高木克尚委員長) 笑顔と元気を後世に伝え続けると。

(二階堂武文委員) 3ページの3行目なのですが、意欲満載の意見が次々と述べられましたで一旦切ったほうがいいですか。最後の発表まで2ページの17行から来て、それ切らないと3ページの8行までずっと続いてしまうので。

(高木克尚委員長) 3 ページ 3 行目の最後は述べられましたので一旦切ります。

(村山国子委員) さっきのレガシーだったのですけれども、レガシー自体に後世にとかという、そういう意味は含まれてはいないのかなと思ったのですけれども、どうなのでしょう。さっき後世にと入れるというふうに言ったのですけれども、レガシーの意味に、ちょっとわからないので、そこは調べてやってください。後世に残す遺産とか。

(高木克尚委員長) レガシーにはたくさんの種類があるでしょうから、特に笑顔と元気を伝え続けるということを経ガシーの一つにと。

(村山国子委員) その中に後世に残すとか、そういう意味が含まれていないのかどうか。馬から落馬したみたいにならなければいいと思うのですけれども、そこら辺ちょっと精査してください。

(高木克尚委員長) レガシーはいろんな直訳ありますけれども、一番わかりやすいのは遺産という意味に多く使われますので、伝え続けることが、すなわち結果遺産になっていくのだらうと読み取っていただければと思うのですが。遺産という直訳だけが意味ではないですけれども。

(根本雅昭委員) 2 ページ目の 6 行目なのですからけれども、最後のところどのようなかかわりを持つことが可能なか調査をいたしましたということで、可能なかというよりも持つことができるのかのほうがりわかりやすいかなというのと、あとかかわりの主語がよくぱっと見るとわかりにくいなという気はしました。オリンピック・パラリンピック競技大会に対する現在の認識と、どのようなかかわりというのが誰がかかわりを持つのかというのがよく、どういうことなのかと、ぱっと見て。

(鈴木正実委員) 高校生などの若い世代がということではないですか。

(村山国子委員) 高校生などの若い世代がとやっしてしまえばいい。のではなくて。

(高木克尚委員長) 5 行目の若い世代のを若い世代が。

(根本雅昭委員) がにすると、が認識……

(鈴木正実委員) 認識するとか何か、動詞にならないとまずいですよね、がでは。

(根本雅昭委員) 対して持っている現在の認識とですかね。認識はそのままでもいいのでしょうかけれども、かかわりというのが。高校生などの若い世代の、どのようなかかわりを持つことが可能。

(村山国子委員) やっぱりののほう合っている。

(小松良行委員) 委員長が読みやすいようがいいのだと思うのですけれども。言っていることそんなにここで大きく伝わらないということはないと思うので。

(村山国子委員) 高校生の認識と高校生がどのようなかかわりを持つことができるのかを私たちが調査した。

(鈴木正実委員) そういうふうにもとれるし、我々が高校生の認識にどのようにかかわるのか、でもとれるのです、ここは。だから、主語がやっぱりないとわかりづらい表現だなと思います。

(村山国子委員) 主語は委員会はやだね。当委員会としては調査をいたしました。

(根本雅昭委員) 開催し、そうかそうか、どのようなかかわり……

(鈴木正実委員) そこまで読み込まないとわからない。

(根本雅昭委員) 確かにそう読めば読めます。

(鈴木正実委員) だから、読む気になるとどっちにもとれてしまう。

(村山国子委員) 高校生と私たちの間というのも可能。そういうとり方もできる。

(根本雅昭委員) 本質的なところではないので。可能なのか調査をとというのはちょっとひっかかったのです、最後の。持つことはできるのかを調査いたしましたのほうがわかりやすいかなというのは。

(小松良行委員) それは同意。

(高木克尚委員長) どのようなかかわりを持つことができるのか。

(根本雅昭委員) できるのかを調査いたしましたですかね。

(鈴木正実委員) 若干ニュアンスは変わるような気がする。可能という言い方とできるというのは、ニュアンス的には微妙な違いがあるような気がする。

(村山国子委員) 持つことがしたいのか。できるのかではなくて、何々をやりたい、いろんなやりたいのを聞いたから、持つことをしたいのかみたいな、そっちのほうがいい。

(根本雅昭委員) お任せします。

(村山国子委員) どのようなかかわりを持ちたいと考えているのかを調査しました。

(高木克尚委員長) どのようなかかわりを持ちたいと考えているのか。

(鈴木正実委員) 高校生主体になってしまうよね、そうすると。高校生がオリンピックにどのようにかかわりたいのかという意味になってしまう。

(根本雅昭委員) そういう意味なのかどうか。

(鈴木正実委員) でも、さっきこっちで言ったのは、議会として子供たちの認識に対してどのようにかかわれるのかというふうにも両方考えられる表現なのです。

(村山国子委員) 下のこれを見れば子供たちのかかわり、こっちのかかわりではなくて、子供たちのというのでいいのでないのかなと思うのですけれども。

(二階堂武文委員) これも文章長いですから、そういったふうに誤解するのですけれども、本市議会としては初めての試みとなる高校生との意見交換会を開催で丸にしまえば、その次の主語は高校生などの若い世代がとすれば、高校生などの若い世代が現在の認識と、あとどのようなかかわりを持つことが可能、それが高校生がだけ主語一本になってしまいます、文章を切れれば。

(鈴木正実委員) そこで切って、がにすると、現在の認識とという、そのところが動詞でないとおかしくなってしまう。

(高木克尚委員長) では、ここ4行から7行にかけては、高校生のことを記載するか、我々の議会としての意識を記載するのか、どっちかにしなければならぬですね。

(鈴木正実委員) そういうことだと思います。

(高木克尚委員長) どっちがいいかな。

(村山国子委員) 議会がこれからのことではなくて、高校生に考えてもらったのだから、高校生が主語でいいと思うのですけれども。

(二階堂武文委員) そうですね。だから、がにして。そうすると、先ほど言ったように……

(村山国子委員) 開催いたしました。内容が高校生などの若い世代がその認識とどういうふうにやっていきたいのかを考えているのかを調査したというふうにやれば。

(鈴木正実委員) 私はまるっきり違うようにとっていて、これは高校生たちの認識にどのようにかかわりを持つことができるのかを調査して、提言としてそれにつなげていくということが我々に課せられたことという意味合いであれば、当然どのようなかかわりが可能なのかというのは我々の立場に対して言っている言葉ではないかなと思うのです。3つの提言が出てきて、それで子供たちが思っている思いを我々が受けとめて、提言をして、これから具現化していく何か弾みになればいいなという、そういう意味合いなのではないかな。

(小松良行委員) そういうふうにつくってあるのですよね。

(鈴木正実委員) 多分これそういうふうになっているのではないかな。

(小松良行委員) だから、すっきりそれで僕は読めたのですけれども。

(高木克尚委員長) 正副委員長とすれば、最後は調査をしたというのはこちら側なので。

(村山国子委員) でも、調査の目的って議会と子供たちのかかわりをこれから継続していくということではなくて、子供たちがどう考えていて、子供たちがどういうふうに感謝を伝えたいかというのを聞いて、結果がこの2ページの下に書いてあるのになっているではないですか。それで単純明快だと思えるのですけれども。

(鈴木正実委員) それは意見だけで、その意見を受けた後で議会としてこうなっているのだということころなのではないかと思う。

(小松良行委員) 余り俺はいじらなくてもいいと思うのです。

(村山国子委員) そうしたらこれも変わってくるよね。そういうふうになったら。

(沢井和宏委員) そうであればここに2つ主語を入れたらどうなのですか。高校生がオリンピックとどのようにかかわれるのか、あるいは我々大人が高校生とどのようにかかわっていくのかというふうに丁寧に2つ入れればあれなのかなと思うのですけれども、どうでしょうか。

(村山国子委員) そうすると、3ページの8行目で2点について知り得る機会となったところでありますの後に私たちがかわりも書かなくては目的と結果が変わってくると思うのです。

(鈴木正実委員) この知り得るは、我々が知り得る機会になったことでしょう。

(村山国子委員) その後のかわり、高校生にどういった支援をして、これを実現するためにやっていくのだみたいなふうに書いてしまうと、知り得る機会となったところでありますで切ったのでは中途半端になってしまう結果になるというふうに、目的を2つやっているのだけれども、それが違うようになってしまうのではないかな。

(根本雅昭委員) これそもそもどちらのかかわりということでどのようなかかわりという表現だったのですか。高校生と私たちなのか、高校生とオリンピックなのか。

(高木克尚委員長) 正副委員長も違っていたかもしれない。高校生とオリンピックの意味が私はあったのです。

(鈴木正実委員) さっき聞いていてそうかなと思ったのですけれども、そうではないとり方もここは可能だし、何となくそっちのほうがすんなりくるのかなと私は思ったのですけれども。

(二階堂武文委員) やっぱり委員長おっしゃったような形で、そういった意味では高校生との意見交換会を開催で一旦丸にして切って、高校生などの若い世代の現在のオリンピックに対する認識と、あと高校生たちがそれにどうかかわりを持つことができるのか、高校生たちがどうかかわれるのかということ調査したわけですから、素直に。

(高木克尚委員長) 我々とすれば、議会とすれば、高校生がこういう考えを持って参画をしたい、それを後押しするにはどうすべきなのかというのが議会かなと。高校生がこう思っているから、何とかしろということではなくて、やはりここはきちんと高校生がどんなことにかかわっていきたいのか、それが同じページの後段にいろいろアイデアが出てくるわけですから、やっぱりオリンピックと高校生の関係をまずここで表現すべきなのかな。

(二階堂武文委員) そうですね。出だしですからね。

(鈴木正実委員) そうすると、さっき言ったみたいにながで、やっぱり主語をきちっと入れた形で、どういうふうにかかわっていくのかということを高校生が主語となる、そういう意味合いでないと。

(高木克尚委員長) 主語がはっきりするように、4から5にかけては開催しました。

(鈴木正実委員) ましたが続くのです、そうすると。

(二階堂武文委員) 開催で丸にしてしまっ。

(高木克尚委員長) 開催、丸。

(村山国子委員) でも、報告だから、しました入れないとおかしいですよ。開催、丸では。

(二階堂武文委員) 丸と読むから、おかしいのですけれども、これ委員長読むことを考えますと……

(高木克尚委員長) 読むときは、意見交換会を開催。とめられるのです。オリンピックと高校生のことを表現したいので、6行目は先ほどご意見いただいたどのようなかかわりを持つことができるのかで理解していただけますか。

(小松良行委員) いいですね。

(村山国子委員) できるというよりは、考えていると言ったほうがいいのではないのかなと思うのですけれども。

(高木克尚委員長) 下のほうがやりたいということを並列でたくさん書いているので、できるという能動的な高校生の姿勢を書いたほうがいいのかな。

では、素案の修正については、ただいまお述べいただいた中身でもう一度正副委員長で整理をさせ

ていただきたいと存じます。次回改めてお示しをさせていただきます。

次に、意見書案についてを議題といたします。

意見書案をごらんください。縦書きです。タイトルにちょっと意を用いたのですが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が復興だというのはずっとこれまでもやってきたのですが、その間に感動を世界に伝えるためにという意識をちょっと入れてみました。

その上で求めるべき項目としては、本文の最後から5行目以降、1と2ですね。1点目は、東京2020大会に関連し、東日本大震災における被災地の感謝の気持ちをあらわす取り組みと現在の元気な姿を世界に発信してくださいねと。2点目は、発信した取り組みと感謝の気持ちが世界各国にどのような反応をもって受け入れられたのか、これをもう一度我々福島市民に伝わるように施策を講じていただきたいというのが2点目の内容になります。そのような取り組みを行うことが国が復興五輪として位置づけしている2020大会であり、復興を後押しする力となったよという趣旨を述べさせていただきました。

意見書案についても黙読をいただいた後、皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、黙読をお願いします。

#### 【資料黙読】

(高木克尚委員長) 本文のほう何かございますか。タイトルもう一回やりますけれども。

(根本雅昭委員) 1カ所だけいいですか。5行目、上から見ると、んできた本市をはじめの一番下の部分なのですが、感謝と復興に歩む元気な姿ということで、感謝に歩むというふうにも読み取れるので、多分感謝と、復興に歩む元気な姿ということだと思しますので、復興に歩む元気な姿と感謝を伝えてきたところであるのほうわかりやすいかなというふうに思います。感謝と復興が同列に見えてしまうような気がするのですが、感謝に歩むと。

(高木克尚委員長) 感謝を後ろに持ってくると。

(根本雅昭委員) はい。

(高木克尚委員長) 復興に歩む元気な姿と感謝を伝えてきたところである。

(根本雅昭委員) もしくは、感謝の気持ちととか何かですかね。

(高木克尚委員長) 先に感謝なのではないかな、時系列的に。

(根本雅昭委員) そう思います。感謝を先にしたいので、感謝の心とか、感謝の気持ちとだと大丈夫だと思うのですが、

(高木克尚委員長) そうですね。感謝の気持ちとですね。どうですか。

#### 【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) 感謝の気持ちを追加してください。

(根本雅昭委員) もう一個伺っていいですか。ローマ字のF u k u s h i m aというのは縦に並んで、この表記は大丈夫なものなのですか。普通英語だと横にこう。ちょっとそこわからないのですが、

も。

(高木克尚委員長) アルファベットの並べ方は、アルファベットのときはこれなのだね。

(書記) 議会の過去の意見書で縦でアルファベットというのはないですが、ほかの議会の資料でのアルファベット表記のやり方ですと縦、こういう表記にしているので、今回それに倣ったというような形です。

(根本雅昭委員) それでしたらわかりました。

(高木克尚委員長) そこで、今度タイトルのほうでひとつ皆様からご意見をいただきたいのですが。

(小松良行委員) 感動をと復興をのをが並んでいて、だからこれをちゃんと……

(沢井和宏委員) 感動をのところに点を入れて、あと復興を加速させる力を例えばかぎ括弧でくくると意味ははっきりするかな。

(二階堂武文委員) あとは、先ほどこの辺でも出ていましたけれども、感動を復興の加速化というようなのもありました。

(小松良行委員) 加速させる力に変えるためということになれば、まとめがそうなっているのだから、感動を、同じ言葉使うしかないのだな。

(高木克尚委員長) 感動が復興の力に役立ってもらいたいというのが趣旨なのですが、力に加速させる、スピード感を持たせた装飾語をつけたために、をとをになってしまったので、感動が復興の力になっていただければいいのです、趣旨は。加速させるという装飾語を逆にとってしまうか。

(山岸 清委員) 復興の力でいいのではないか。加速要らない。

(二階堂武文委員) 感動を復興の力に変えるですね。

(山岸 清委員) 加速は要らないと思うな。

(高木克尚委員長) さらなる力を入れてほしいということを考えたときに、加速という言葉が入ってしまったのです。

(山岸 清委員) 感動を復興の力に変えるということでもいいのではないのでしょうか。直球が変化球になる。

(小松良行委員) すっきりしますね、そのほうが。

(二階堂武文委員) そうですね。力強い。

(高木克尚委員長) 加速とるか。

(山岸 清委員) 加速要らないでしょう。

(尾形 武委員) オリンピックを契機に加速をしたいという意味なのです、これは。オリンピックを強調するための加速という言葉だから、これ点を入れればそんなに考えることない。

(村山国子委員) かぎ括弧もだめですか。

(山岸 清委員) 変えることは加速だから、感動を復興の力。

(鈴木正実委員) 加速のニュアンスは加速なのだよ。

(小松良行委員) 感動をで、点つくかどうかわからないけれども、どっちな括弧に入れたらいいのではない。感動を復興の力に加速させるでいいのではないの。変えるを抜けばいい。

(渡辺敏彦委員) 変えるがおかしいのか。

(小松良行委員) うん。だから、変えるを抜けば。加速するということですのでいいのですから、変える必要はないです。まるっきり後ろ向きになったり横向きになっているのだったら変えるなのですけども、加速させているのですから、変える必要はないので、感動を、その後復興の力というふうにして加速させる。

(山岸 清委員) 復興の力に加速させる。

(鈴木正実委員) 復興の力は加速しないのではないのかな。復興は加速するけれども、力は加速しないのではないかな。

(二階堂武文委員) 感動で。

(小松良行委員) 感動の力を加速の力に。

(二階堂武文委員) 感動の力で復興の力を加速させる。

(高木克尚委員長) 感動で。どうですか、皆さん。感動で復興を加速させる力に変える。異論ございませんか。

#### 【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、感動をを、感動で。

そのほかお気づきの点ございますか。

(村山国子委員) 本文のほうはどうしますか。

(小松良行委員) こっちの本文、よっての一番最後のところが。

(山岸 清委員) ここも直せばいいね。感動で。

(小松良行委員) 同じくそろえなければならぬですね。よっての一番下のほう。

(高木克尚委員長) ありがとうございます。本日いただきましたご意見を正副委員長手元で再度意見書案の調整をさせていただいて、次回委員会でお示しをさせていただきます。

次に、意見交換会のアイデア集についてを議題といたします。

こちらは、委員長報告や提言に盛り込み切れない高校生のアイデアを簡条書きに記載しておりますが、内容については各グループでまとめたアイデアに加えて、高校生一人一人が記入したシートに記載されているアイデアについても記載をさせていただいております。また、最後には委員会の中で委員の皆さんで行ったシミュレーションで出た意見、これも記載してございます。このアイデア集についてご意見があればお伺いをしたいと思います。

(小松良行委員) 補足資料だね。

(高木克尚委員長) 資料でございます。ただ、提言出したときに、形ばかりではなくて、こんなに真剣に考えているのだよと言える素材にしたいなと思います。

ありがとうございました。本日いただきましたご意見をもとにもう一度アイデア集の調整をさせていただきますながら、次の委員会で再度お示しをします。

次に、その他を議題といたします。

今度行われます春季議会報告会での特別委員会の説明についてであります。報告される方は、前回の委員会でお配りをさせていただきました意見交換会の概要を、これを参考に各会場で報告をいただければと思うのですが。

(小松良行委員) こうして渡せばこういうことやったのだなとビジュアル的にわかるけれども、言葉に起こして、3分だったっけ。

(高木克尚委員長) そうです。非常に短い時間です。

(沢井和宏) 8分。

(小松良行委員) そんなにあるのだったっけ。8分。

(高木克尚委員長) 市議会の歴史の中で初めて高校生とやりましたという前振りと、今の高校生こんなこと考えているというところがせいぜい報告の趣旨になってしまうのかなど。表現の仕方は各自皆さんにお任せしますので、ぜひこの概要に基づいてお伝えください。

次に、今後の日程についてであります。次回の委員会は5月14日となっておりますが、もう一度皆さん、確認をいただければ。

(小松良行委員) 5月14日になっています。

(山岸 清委員) 14日の1時半。

(高木克尚委員長) その次、5月23日、この日ちょうど文教福祉があるので、その後の午前11時ごろ行いたいのですけれども。どうしてもだめな方いらっしゃいますか。23日午前中。

(山岸 清委員) 大丈夫です。

(高木克尚委員長) それでは、皆さんご都合つくことが可能なようでございますので、次回は5月14日、その次は5月23日木曜日11時と、日程調整をお願いしたいと思います。

なお、次回からの当委員会開催にあたりまして、地球温暖化防止など環境対策の一環として、10月末までの期間、クールビズということでネクタイ、上着の着用は自由といたしますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

正副委員長から以上ですけれども、皆さんから何かございますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(高木克尚委員長) では、以上で本日の東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。

午後2時24分 散 会

東京2020オリンピック・パラリンピック調査特別委員長

高木 克尚